

ビオトープだより第68号

会員・BA より ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 岩手県大槌町山林火災現地調査結果について

会員 臼澤良一（三陸自然学校大槌 代表）

大槌町山林火災は、2026 年（令和 8 年）4 月 22 日に岩手県上閉伊郡大槌町で発生した。火災は町内の小鎚地区および吉里吉里地区の 2 か所で同日に発生し、乾燥と強風により延焼が拡大した。5 月 2 日に鎮圧、5 月 29 日に鎮火した。

人為的消火活動（消防車・人海戦術・航空消火）は全く効を奏せず、降雨によって鎮火に至るまでに 1633 ヘクタールの林野が焼失、町人口の約 3 割にあたる 1558 世帯 3257 人に避難指示が出された。住宅の焼失は 1 軒、多くの住宅地への類焼は防ぐことができた幸いであった。

このような中、大船渡市と大槌町で発生した二度にわたる岩手広域森林火災を契機に、将来を見据えた新たな森林施業計画について、去る 6 月 26 日、NPO 法人日本ビオトープ協会元理事・相談役の野澤日出夫氏が大槌町長に提言した。

提言は「森林火災は木をもって制する」という内容である。

広域森林火災後の復旧における将来を見据えた施業計画について

<https://www.biotope.gr.jp/wp-content/uploads/keikaku.pdf>

昨年から相次いだ岩手の大規模森林火災は、ビオトープだより読者の皆さまにとって他人事ではなく、地球温暖化が年々高まるなかで、そのリスクは深刻化しています。

森林火災リスクは、2050 年までに 30%、2100 年までには 50%増加すると言われていて、日本全国どこにでも同様な火災が発生する事は明らかであり、今回ご紹介する林野庁東北森林管理局による火災現場の現地調査の取り纏めは、今後協会員皆さまの活動の中で参考になると思われます。このたびの森林火災は私の町内の大被害であり、その現地調査結果について、下記 QR コード又は URL からご紹介し共有する次第です。

なお、検討中の大槌町森林火災再生計画については、今後公表され次第この場をお借りしてご参考までに報告したいと思います。

岩手県大槌町林野火災調査報告

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/press/tisan/attach/pdf/260717-1.pdf>



2. 「大槌町郷土財活用湧水エリアビオトープ」ミズアオイ見学会 会員 臼澤良一（三陸自然学校大槌 代表）

毎年春先には、ミズアオイ保護に必須の生育池の攪乱作業を、住民、町部局、環境保護グループ、地元高校生、NPO 団体、大学など多様な人たちが集まり実施して、その後の生育状況を確認し、開花時期に合わせて毎年見学会を開催しております。

今年も、岩手県立大学の島田先生から大槌のミズアオイの特性について説明を受けた後、池に咲いている青紫色の花を見て歓声を上げておりました。

その後、「小岩井農牧（株）元代表取締役常務」の野澤日出夫先生から「大槌町におけるミズアオイの再生と古代日本における水生食用植物の文化的重要性」と題して講話をいただきました。

ミズアオイの葉を材料とした天ぷら、おにぎりの試食会を行い、万葉の時代に想いを馳せるとともに、保護活動の重要性について認識を新たにしました。

1. 開催日 2026 年 8 月 22 日（土）10:00～12:00

2. 参加者 20 名

3. 見学会写真



岩手県立大学島田先生から郷土財湧水エリアミズアオイについて説明をいただきました。



ミズアオイの生態や花の構造などを身近に観察し、興味を深めた様子でした。

4. 講話写真



「小岩井農牧(株)元代表取締役常務」の野澤日出夫先生から「大槌町におけるミズアオイの再生と古代日本における水生食用植物の文化的重要性」と題して講話をいただきました。

大槌での保護活動は、自然環境の回復のみならず、震災の記憶と古代からの歴史的アイデンティティを統合する重要な取り組みであることを認識しました。

5. 試食会写真



大槌町ファミリーショップやはたの女将さんによる試食のおにぎり（上）とてんぷら（下）。

「美味しい」との評価でみなさん試食を楽しみました。

6. まとめ

- ①春先の入念な攪乱作業により、例年以上に抽水葉が確認されたので、多くの開花を期待しました。今年は異常気象によるものか、例年よりも開花時期が遅く、更に開花数も少なく、心配しましたが、当日はみごとに咲き、見学者もミズアオイの花を見て感動しておりました。
- ②島田先生から「大槌のミズアオイは震災大津波で偶然再生してきた貴重な植物」とのお話があり、その記憶を次世代に伝えと共に保護活動の重要性を新たにしました。

以上